

第5章 山根・立川ゾーン整備計画

「新居浜のシンボルえんとつ山に継承される作務の精神と憩いの空間」

1. 山根・立川ゾーンの現況

(1) 山根・立川ゾーンの産業遺産集積状況

図-〈山根・立川ゾーン〉周辺現況図 参照

【文化財施設】

重要文化財旧広瀬家住宅を含んだ広瀬歴史記念館として整備されています。また、隣接する広瀬公園は県指定名勝に指定されています。広瀬家墓所は市指定史跡となっています。

国登録有形文化財旧山根製錬所煙突は山根公園の一環として公園管理としています。山根競技場観覧席（山根グラウンド石積）についても同様です。

文化財となっている近代化産業遺産は公園内にあり施設公開されています。

【その他の産業遺産】

別子銅山産業遺産の明治近代化の歩みを学べる博物館施設として上原地区の広瀬歴史記念館（平成9年）と住友グループによる管理施設別子銅山記念館（昭和50年）があります。これらの博物館施設は新居浜市内博物館の拠点施設としての性格を持っています。博物館施設周辺には、角野小学校の郷土資料館、角野公民館の図書施設があり二つの博物館の学びを補完する施設となっています。

その他の産業遺産は、山根収銅所、下部鉄道跡、牛車道、鉋友寮等が残されています。これらは企業管理で現役施設もあります。立川から仲持道（別子往還道）が続いています。

現存しない産業遺産は、江戸から明治期の立川中宿・立川精銅所跡が自治会の広場として利用され、川口新田社宅跡は山根公園となっています。山根東社宅をはじめ社宅が点在していましたが、現在では民間開発の住宅等となっています。

産業遺産に関連する大山積神社や瑞応寺など社寺仏閣、別子銅山学習を取り入れている新居浜南高校や角野小中学校、公民館等公共施設が周辺にあります。

地区の特長は、静かな自然環境と住環境に溶け込んだ産業遺産関連施設が一体の都市景観を誇っており、都市生活における散策の楽しみ等を体感する魅力があり、その集積状況や整備が進んでいることから、地域交流に適したエリアとなっています。

【主な施設写真】



広瀬歴史記念館



旧広瀬家住宅
広瀬邸母屋・新座敷（小野吉彦氏撮影）



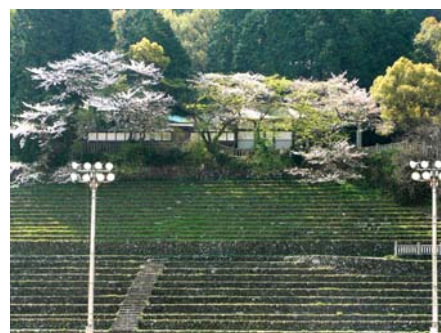
広瀬家墓所



旧山根製錬所煙突



山根収銅所



山根競技場観覧席



別子銅山記念館



大山積神社

<山根・立川ゾーン>周辺現況図
A 3 図面挿入

(2) 山根・立川ゾーン現況状況

1) 博物館の開館状況

【別子銅山記念館】

住所	愛媛県新居浜市角野新田町 3-13
管理運営	住友グループ
開館時間	9 時～16 時
休館日	月曜日、国民の祝日（日曜日と重なる場合は開館） 12 月 29 日から 1 月 3 日、上部地区秋祭の中日
料金	無料
館内展示内容	<ul style="list-style-type: none">・住友の歴史を紹介する「泉屋歴史コーナー」・銅山の開坑から最近の関連事業まで裾野を拡げた「歴史コーナー」・鉱石などの「地質鉱床コーナー」・ここで働いた人たちの生活をしのばせる「生活風俗コーナー」・西洋の技術が導入されて以降の機材が並ぶ「技術コーナー」
屋外施設など	屋外には、明治 25 年（1892）にドイツから輸入され鉱石運搬などに活躍した蒸気機関車なども展示されています。

【広瀬歴史記念館及び旧広瀬家住宅】

住所	愛媛県新居浜市上原二丁目 10 番 42 号
管理運営	新居浜市
開館時間	9 時 30 分～17 時 30 分
休館日	月曜日、国民の祝日の翌日（日曜日を除く）、12 月 29 日から 1 月 3 日
料金	一般 520 円、一般団体 20 名以上 420 円、市内在住 65 歳以上及び身障者とその介護者 260 円、中学生以下無料
館内展示内容	広瀬幸平の人生が、テーマ毎に映像や実物資料、パネルを用いて紹介されています。外には広瀬幸平の銅像があります。
旧広瀬家住宅	旧広瀬邸の母屋は、明治 10 年（1877 年）に現在の場所から北約 4 キロメートル離れた旧金子村の久保田で竣工され、同 18 年からの広瀬邸移転に伴い、乾蔵・米蔵などと共に現在地に移築され、明治 22 年には付属の新座敷と庭園が大阪の棟梁八木甚兵衛と、植木屋清兵衛の手によって竣工されました。その後、大正・昭和初期にかけて、南庭や中之町池（亀池）周辺の整備が行われています。母屋二階の望遠楼と名付けられた部屋からは新居浜市を一望することができます。

2) J R新居浜駅から山根地区への移動性

【バス】

<u>J R新居浜駅より広瀬歴史記念館</u> せとうちバス「広瀬公園停留所」	所要時間約 33 分	600 円
<u>J R新居浜駅より別子銅山記念館</u> せとうちバス「山根停留所」	所要時間約 12 分	250 円

【自転車】

<u>J R新居浜駅より別子銅山記念館</u> 距離約 3.7 k m	所要時間約 22 分	平均速度 10km/h
<u>別子銅山記念館より広瀬歴史記念館</u> 距離約 2.5 k m	所要時間約 10 分	平均速度 15km/h

【徒歩】

<u>J R新居浜駅より別子銅山記念館</u> 距離約 3.7 k m	所要時間約 56 分	平均速度 4km/h
<u>別子銅山記念館より広瀬歴史記念館</u> 距離約 2.5 k m	所要時間約 38 分	平均速度 4km/h

※星越から広瀬歴史記念館へ自転車で移動
距離約 6.4 k m 所要時間約 38 分 平均速度 10km/h

(3) 山根・立川ゾーンの現状の課題

- 近代化産業遺産資源（立川中宿及び立川精銅所跡、下部鉄道跡、牛車道、別子往還道等）が豊富に残されているが、その価値や企業や地域の理解及び認知度が得られていません。
- 広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、その他の地区のマイントピア別子、愛媛県総合科学博物館等管理者が異なる施設ですが、多様な主体者間の連携で近代化産業遺産を学習、都市型観光に活用していません。
- 地区の自然環境や住環境と合わせて、近代化産業遺産を景観資源として有効に活用していません。
- 文化財として保存されている近代化産業遺産を地域学習の場、地域コミュニティの場等地域の生活・遊びに関連付けた活動を継続させていくこと及びその活動者が広がりません。
- 近代化産業遺産説明板が充実してきましたが、散策や観光周遊に資するサイン施設*や案内施設が不足しています。
- J R新居浜駅周辺や星越惣開地区との都市部エリアを周遊する自転車道の整備延伸。

2. 山根・立川ゾーンの保存活用方針

(1) 保存活用の目的

■「静かな住環境を支える歴史文化資源が都市景観のイメージを高める」
地域生活の豊かさ、都市ブランドイメージを創る

□近代化産業遺産のストック*を重視し地域住環境向上を図る都市ブランドイメージを形成

新居浜のシンボルである旧山根製錬所煙突を景観資源として重視し、市内から見える眺望景観を確保する。特にJR新居浜駅周辺からの眺望が新居浜らしさの都市ブランドイメージを創出します。また、重要文化財旧広瀬家住宅など周辺の景観保護を図ることや近代化産業遺産施設をネットワーク化し景観資源として活用し、地域住環境づくりが資産価値を高めま

す。
近代化産業遺産のストックを重視し、歴史文化資源、景観資源として、都市計画との連携を図ることで地域資産価値を向上させていきます。

□協働のまちづくりによる近代化産業遺産周辺の保全と近代化産業遺産の魅力向上につながる

えんとつ山の公園整備や山根グラウンド清掃活動等、地域生活に関連付けた活動を支えるために、市民協働のまちづくりの導入を促進させ、近代化産業遺産周辺の保全や近代化産業遺産の魅力向上をさせていきます。今後の維持に向けて地域とのパートナーシップ*を結んでいきます。

□地域コミュニティ活性化に資する近代化産業遺産活用の推進

地域コミュニティの活性化に向けて、近代化産業遺産を学習の場として、また、超高齢化社会を迎える中、市民憩いの場、健康まち歩きによる健康増進など市民が近代化産業遺産を活用し地域交流の活発化を図るとともに近代化産業遺産への理解や認知度を高めていきます。

□近代化産業遺産の学びや観光周遊等着地型観光を促進させ地域交流を活発化させる

広瀬歴史記念館等博物館及び本物の近代化産業遺産、旧山根製錬所煙突等をネットワーク化し学習や観光周遊を促進させていくために、統一されたサイン計画や案内板、自転車道整備によりスムーズな周遊を確保することやプログラムの連携を図ることで地域交流を活発化させます。

□整備された施設を有効に活用すること

下部鉄道跡の自転車サイクリングロード、銅（あかがね）の道のポケットパークなど整備されてきた施設を有効に活用することで、景観保全や周遊ネットワークによる着地型観光の促進を図ります。

(2) 近代化産業遺産保存方針

■ 近代化産業遺産の価値保存

- 現存する近代化産業遺産施設の保存に向けて所有者との協議、地域への啓発を行い保存することが望ましい施設については所有者との合意形成を図り保存します。
- 近代化産業遺産を文化財保護の視点でその価値を保存します。文化財とする場合、所有者に対する配慮として補助、税の優遇等支援策を提案します。
- 社宅跡等消失している近代化産業遺産の説明板を追加し価値保存を進めます。

■ 立川中宿、立川精銅所の価値保存

- 江戸期から明治期にかけての近代化産業遺産として立川中宿、立川精銅所の現地調査を行い、史跡保存として望ましい方針を立案します。
- 跡地は立川地区の地域交流としてゲートボール等に利用されており、地域生活との関連が深いことから、地域と連携して史跡価値をまとめ充実した保存を地域連携で行います。

■ 地域コミュニティとの連携保存活動

- えんとつ山での協働のまちづくり活動、角野小学校の山根グラウンドボランティア清掃等、地域で保存する活動を広げるため、地域市民への啓発活動を行い、自主的な保存意識を高めていきます。そのためにも別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくりの強い方向性を示します。

■ 都市計画との連携保存

- 地方自治体の景観条例制定、歴史まちづくり法等による都市整備の導入及び連携など独自の保存活用を制度化します。

(3) まちづくり活用方針

■ 着地型観光と景観形成 別子往還道の観光街道活用

- 端出場より銅（あかがね）の道で口屋までを結ぶ道を別子往還道と位置づけ、歩きや自転車周遊する地域交流と都市計画との連携による景観保全を図り歴史文化道として保存活用します。
- 銅（あかがね）の道のポケットパーク整備を活用し、近代化産業遺産案内や情報発信、街道観光をPRするイベント実施などまちづくりプログラムを導入し着地型観光への活用を図ります。

■ 学びの場 ミュージアムリンク

- 広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、文化財となっている近代化産業遺産をネットワーク化し、文化財巡りプログラムや展示プログラムを連携し、周遊の学びにスタンプラリー等アイデアを盛り込んで積極的な学びの活用を行います。
- 他地区の博物館等と異なる主体者間で連携を図りプログラム等のネットワーク化による学びと周遊観光の活用を図ります。

■ 都市部エリアの周遊 自転車道ネットワーク

- 山根地区へ自転車サイクリングロードの延伸整備により、JR新居浜駅と星越地区との自転車周遊ネットワークを形成することで観光交流、市民交流を促進します。
- 下部鉄道山根駅跡地付近は自転車移動の休憩所として自転車道の駅を設置し、山根・立川ゾーンの産業遺産巡りを促します。自転車道の駅には案内、展示、情報発信等の機能を導入します。

■ エコミュージアム* えんとつ山

- えんとつ山の周辺環境（河川、山、公園）を活かしエコミュージアムとして自然体験などのプログラムを導入し、近代化産業遺産のシンボリック活用を図ります。また、市民のライトアップ活動等と連携し近代化産業遺産のシンボリックイメージをさらに高めて近代化産業遺産活用モデルとしてPRします。

■ 協働のまちづくり 官民協働と体制づくり

- えんとつ山の事例のように協働のまちづくり活動を近代化産業遺産の保存活用に導入し地域コミュニティ活性化を図るため、協働のまちづくりへの支援制度と体制づくりを行います。

■ 無形文化財の保存活用

- せつとう節、大鉾の歌等伝統文化を地域で継承する活動を支援し無形文化財の保存活用を図ります。
- 別子銅山閉山後しだいに体験者の記憶が失われつつあり、地域生活文化の積極的な記録保存を進めその記録の公開など活用します。

3. 山根・立川ゾーンの整備方針

図-〈山根・立川ゾーン〉整備計画図 参照

■ 着地型観光の促進 統一されたサイン計画、案内板、産業遺産説明板の充足

- 山根・立川地区は都市部エリアの観光が可能であり、JR新居浜駅周辺や星越地区との着地型観光を促進する地区として、市内統一誘導サイン、観光案内等優先的に整備を図ります。
- 産業遺産説明板は八十八箇所に充足させ、周遊の面白みを与えイベント等活動基盤を作り着地型観光を活性化させます。

■ 着地型観光の促進 自転車サイクリングロード延伸整備 自転車道の駅

- 自転車サイクリングロードの延伸整備を図ります。山根大通りを経て国領川河川のサイクリングロードとネットワークを形成し回遊性を高め地域交流、着地型観光を促進します。
- 下部鉄道山根駅跡付近に自転車サイクリングロードの休憩場所を設置し、山根・立川地区の観光案内拠点、情報発信として下部鉄道の駅をイメージさせる自転車道の駅等整備を図ります。

■ 産業遺産調査 立川中宿、立川精銅所の価値保存

- 立川中宿、立川精銅所の現地調査を行い、地域と協働して史跡保存に努め、必要であれば、史跡もしくは文化財として適切に保護政策を施し、現地に説明板等整備を図ります。

■ 街道観光 別子往還道の調査計画

- 街道の調査をすすめ、整備済みのポケットパーク*に近代化産業遺産案内を設置する等周遊観光の基盤づくりを行います。
- 愛媛県と連携し歴史文化の道づくりを進めます。沿道の景観保全や道路交通計画等具体的な保存活用を計画し、市内に分布する近代化産業遺産のネットワーク化を図ります。

■ 協働のまちづくり まちづくり体制づくり

- 主体者の異なる博物館を連携しプログラム共有、博物館学びのネットワーク化と利用促進、都市型観光促進に向けて、主体者、管理者、ボランティアガイドなどで組織体制づくりを進めます。
- えんとつ山エコミュージアム化、無形文化の保存、地域教育との連携等協働のまちづくりの活動支援、近代化産業遺産の普及啓発活動、ボランティア育成市民団体への支援等まちづくり体制をつくります。

<山根・立川ゾーン>整備計画図
A 3 図面挿入